

第 34 回 唐の衰退と滅亡

1 唐の律令国家体制

- ・唐は、隋の中央集権体制を基本的に受け継ぎ、それを完成させた。
→この体制を律令国家体制といい、他の東アジア諸国にも大きな影響を与えた。

- ・地方行政は、郡県制に近い（ ）が実施された。
- ・土地制度は、北魏や隋と同じく（ ）が実施された。
→成年男性（丁男）に（ ）を支給し、死んだら返還させた。
※民衆には永業田、高級官僚には官人永業田という世襲の土地も与えられた。
→貴族は（ ）と呼ばれる広大な私有地を持ち、隷属農民に耕させた。
- ・均田制にもとづき、（ ）という税制が実施された。
- ・均田制にもとづき、西魏以来の（ ）という兵制が採用された。
→折衝府が兵士を集めて訓練し、都を守る衛士や辺境を守る防人とした。
- ・官吏任用制度では、隋以来の（ ）が実施された。
※蔭位の制という家柄によって貴族が優遇される制度もあった。
- ・（ ）と（ ）からなる行政制度を組織した。
- ・（ ）からなる法律を整備した。 ※律は刑法、令は民法や行政法



武則天
悪女とされることが多いが、近年はその政治が見直されてきている。
国号以外にも、漢字や称号の変更を行っている。

2 武韋の禍

- ◆（ ）（在位 690～705 年）
 - ・高宗の皇后で、高宗の病に乗じて政権をにぎった。
→690 年、中国史上唯一の女帝となり、国号を（ ）へと変更した。
 - ・科举官僚を積極的に登用するなど、中央集権体制をすすめた。
- ◆中宗（在位 683～684、705～710 年）
 - ・高宗の後に即位したが、母の則天武后に廃位させられていた。
→則天武后の死後に復位したが、今度は皇后の（ ）に殺された。
※この 2 人の女性が権力を握った事件を（ ）という。

3 唐の再興と衰退

- ・武韋の禍の混乱をおさめて、皇帝となったのが玄宗であった。
→玄宗は、治世前半に唐を安定させたが、後半になると政治は乱れていった。



玄宗
前半は政治改革をすすめて、唐の政治を建て直した。
しかし楊貴妃を寵愛してからは、夜更かしをして朝起きないようになり、政治への関心を失った。

- ◆ () (在位 712～756 年)
 - ・「 」と呼ばれるすぐれた政治を行った。
 - ・ 8 世紀になると、府兵制は均田制の破たんにより実施が難しくなっていた。
→農民から集められなくなり、傭兵を雇う () が導入された。
→集めた兵士の指揮官として、辺境には () が置かれた。
 - ・ 751 年、中央アジアで起こった () で、唐はイスラーム勢力の () に敗れた。
→この時、 () が中国から西方に伝わったとされる。

- ・玄宗は、治世の晩年に絶世の美女 () を寵愛し、政治は乱れた。
→755 年、ソグド系の軍人で 3 つの節度使を兼ねていた () と、その部下で同じくソグド系の () が () を起こした。
→チベット系の () が、この混乱に乗じて一時的に長安を占領した。
→唐はトルコ系の () の援助で、ようやく反乱を鎮圧した。



高仙芝

高句麗出身の軍人で、タラス河畔の戦いでは敗れたが、能力は非常に高かった。最後は安史の乱に巻き込まれて死んだ。



ドラマ『楊貴妃』

世界三大美女のひとつとされる。実際はかなり豊満な体つきをしていたらしい。好きな食べ物はライチ。安史の乱の際に殺された。



安祿山

父はソグド人、母は突厥人とされる。体重 300 キロだが、素早い動きでダンスも得意だった。しかし最後は糖尿病で失明し錯乱した。

4 唐の滅亡

- ・安史の乱の後、各地に置かれた節度使は行政や財政もにぎった () として、事実上の独立状態となってしまった。



徳宗
少しだけ安定したが…

- ◆徳宗 (在位 779～805 年)
 - ・均田制が破たんし、租調庸制による税の徴収は不可能となっていた。
→荘園と呼ばれる広い私有地を持つ者もいたが、戦乱で土地を失う者もいた。
 - 780 年、宰相の () の提案で、 () が導入された。
※戸籍上ではなく現住地の財産に応じて、夏・秋の 2 回に分けて課税した。

- ・ 875 年、塩の密売人の王仙芝と黄巢が () を起こした。
→907 年、大混乱の中、 () によって唐は滅ぼされた。
→朱全忠は () を建国し、これ以降を五代十国時代という。



朱全忠
元は黄巢の乱に加わっていた。途中で裏切り唐についていたのだが…